

1

特集 多様な学びのカタチ

遊びから始める学び

岩瀬直樹・軽井沢風越学園設立準備財団副理事長

創る文化をつくる

西山恵太・CURRO SCHOOL代表取締役

大人が学び手となつて探究する

藤原さとこ・こたえのない学校代表理事

13

30周年記念プログラム

(写真真：杉山和行、佑木瞬)



にじいろのさかなワークショップ (写真：但馬一憲)
感謝をこめて (写真：杉山和行)

17



学校のソトでうでだめし

(写真：mick park)

25



多言語・多文化交流

パフォーマンス合宿

(写真：劉成吉)

33

財団の概要

組織

評議員会長あいさつ

理事長あいさつ

TJFを支援してくださっている方々

2018年11月発行

(公財) 国際文化フォーラム

〒112-0013

東京都文京区音羽1-17-14

音羽YKビル3F

Tel 03-5981-5226

Fax 03-5981-5227

Email forum@tjf.or.jp

URL www.tjf.or.jp

Facebook

www.facebook.com/TheJapanForum

発行人 内藤裕之

デザイン 山本義明 (goldfish design)

表紙ロゴ 土屋勇太

編集担当 千葉美由紀 (TJF)

編集協力 古賀亜未子 (エスクリプト)

印刷・製本 凸版印刷株式会社

ISSN 2189-6208

©2018 by the Japan Forum, Printed in Japan



このマークのあるページでは動画がご覧いただけます。動画をご覧いただくには、下の手順にそってお願いします。

1. お手持ちのスマホ/タブレットで下のQRコードを読み込み、COCOAR2アプリをインストールしてください。
2. COCOAR2アプリを立ち上げ、このマークのあるページ全体がスマホ/タブレット画面に入るようにしてください。
3. ダウンロードが終了すると同時に動画が始まります。
4. 全画面で見やすくするためには、スマホ/タブレットをこのマークがついているページからずらしてください。
5. 動画は繰り返し再生されます。
6. 再びご覧になるときは、2～4の手順を繰り返してください。



【 iPhone / iPad用 】



【 Android用 】

30

30



変面 高取優耶

屏写真：杉山和行、佑木瞬



にじいろのさかな ワークショップ

30周年記念事業の第一弾として、『にじいろのさかな』の作者、マーカス・フィスター氏によるワークショップを8月に実施しました。



『にじいろのさかな』(講談社刊)シリーズは世界で約60の言語に翻訳され、1,500万部が出版されています。





「私はギターを奏でて、みんなを楽しんでいる！」

思い思いに描いて切り抜いた魚を頭につけて、海に見立てた会場を泳ぎ回る参加者。一人ひとりどんな魚なのか自己紹介。にじいろのさかなワークショップのシーンです。

ワークショップでは、フィスター氏の魚の描き方レクチャーがありました。さまざまな魚を描くために、魚の形や大きさ、つつこやひれの形、さらには喜怒哀楽の感情をどのように描き分けるのか、実演を交えた話を聞きながら参加者は手を動かして、一般的な魚の形にとらわれず自由な発想で描くよう促されてできあがったのは参加者40名の実に個性あふれる魚でした。

自分が考えた魚を描くことで、一人ひとりの個性に気づき、多様な人たちがいるからおもしろいことを体感した参加者の一人は、「小学校の英語の時間でも多様な文化背景をもつ子どもたちのことを考えた活動が必要になってきました。ぜひこの活動を取り入れたい」と感想を述べていました。

「私はDigital Block Fish。TANJUTUータを使って自分の姿を自由に変えたい！」

「私はギターを奏でて、みんなを楽しんでいる！」



2017年度事業データ

にじいろのさかなワークショップ

期日：8/12(土)、場所：講談社、参加者：40名

このプログラムの写真：但馬一憲



感謝をこめて

2月26日、ホテルグランドヒル市ヶ谷にて、TJFをさまざまな形でサポートしてきてくださった方々をお招きし、感謝の会を開催しました。TJFが2007年に実施した第1回漢語橋：日本の高校生サマーキャンプの参加者で、福岡を拠点に活躍する黒龍舞術団主宰者・高取優耶さんに中国の伝統芸能である変面を披露していただきました。次々と顔が変わる変面を初めて見る方も多く、その素早さに驚きの声が上がりました。

高取さんは、高校1年生のときに参加したサマーキャンプで見た京劇がその後の進路に大きな影響を与えたといいます。その後何度も中国に単身で渡り、門外不出とされる変面の芸を身につけたのです。そして、自分にしかできない舞台をつくりたいと語ります。サマーキャンプから10年以上が経ち、舞台上に輝く高取さんの姿に大きな拍手と歓声が起こりました。



感謝を述べる野間省伸評議員会長

このプログラムの写真：杉山和行

財団設立から20年を期して活動の記録をまとめた『ことばと文化II』を受け、その後の10年間の事業を紹介した「ことばと文化30TH」を制作しました。各事業がなぜ始まったのか、どのように事業が変遷してきたのかを綴った『Tracks』、それらの事業をデータで追った『Jobs』、特集をまとめた『Flow』と3分冊にし、さらにパンフレットをセットにしました。

『Jobs』では、日時、場所、関係機関、協力者、内容など詳細なデータを掲載し、活動が具体的にわかるようにしました。『Flow』では、野間省伸評議員会長と渡邊幸治理事長が対談で、時代に流されず時代を見極めていくことの重要性を語り、特集では、異なる分野で日々創造的に仕事に取り組んでいるキリーロバ・ナージャ氏（電通Bチームクリエイティブ/コピーライター）、稲垣忠氏（東北学院大学教授）、細井洋実氏（聖心インターナショナルスクール日本語教諭）に「できたらいいな、をカタチにする」として国際交流プログラムを企画してもらいました。パンフレットでは、現在実施している事業を4つのキーワード「体験する」「探究する」「つながる」「発見する」に分類して伝えています。



左から『Tracks』、『Jobs』、『Flow』の3分冊とパンフレット

学校のソトで
うでだめし

学校、塾、家庭。いつも自分がいる場所を離れて、ふだん出会わない高校生やオトナと過ごしてみる。ことば、アート、音楽、文化、社会問題について、その道のプロのナビゲートのもと、学校の授業とはちょっと違うアプローチで取り組む。ひとりでじっくり考えたり、ほかの人たちと話し合ってみて、生まれてきたものを、ことばやモノやカラダで表現する。ほかの人に聞いてもらい、見てもらって、感じたことをことばにする。





ことばの世界を 服で表現してみたら？

2017年度は、舞台衣装家や探究学習のサポートをしている高校の先生とチームを組み、「ことばの世界を服で表現してみたら？」を実施。4日間かけて、自分が選んだ詩を舞台衣装家の視点などさまざまな角度から味わって、その世界に立つ自分に着せたい服を考えました。白いTシャツ5枚を使い、完成させた服を着て詩を朗読しました。

1 詩を味わう



いちばん揺さぶられる一文は？

どんな場所や空間が浮かんだ？

空の状態や、気温、湿度はどんな感じ？

時間の流れは速い？ 遅い？

どんな感情が流れてる？

詩の世界にあなたがいたら、

どこにいる誰？

どんな服を着せる？

舞台衣装家 川口知美さん



2 服をつくる

切る



縫う・くっつける



染める



3 朗読する



2017年度事業データ

学校のソトでうでだめし「ことばの世界を服で表現してみたら？」(ことぶくワークショップ)

期間：9/9(土)、9/10(日)、9/30(土)、10/1(日)、主催：TJF、講師・ファシリテーター：川口知美(舞台衣装家)、

企画協力：宗愛子(中高校司書教諭)、参加者：高校生5名、大人5名

※参加者は次の5篇の詩のなかから選んだ。高村光太郎「道程」、中原中也「汚れつちまつた悲しみに……」、丸山薫「未来へ」、田村隆一「帰途」、茨木のり子「自分の感受性くらい」(『教科書で出会った名詩一〇〇』新潮文庫 所収)



選んだ詩 「帰途」

あなたはこの詩の世界の誰？

なにかに傷ついた直後の「ほく」

工夫とこだわり

多様な解釈ができるようにシンプルにした。布を長く使って高さを出すことで、自分の身長の高さが生かされ、力強さが出るようにした。内省を促すような落ち着いた色。



選んだ詩 「帰途」

あなたはこの詩の世界の誰？

「ほく」

工夫とこだわり

「言葉なんか覚えるんじやなかつた」と言うが、ことばをおぼえる以前には戻れない「ほく」。ことばにしばられて生きていかななくてはならない無力感を表そうとした。ロープや白布で、「ほく」をしばることば、ことばによってできた傷口のかさぶた、その上に巻く包帯をイメージした。



選んだ詩 「帰途」 田村隆一

あなたはこの詩の世界の誰？

「あなた」と「きみ」が頭のなかにいる「ほく」

工夫とこだわり

「ほく」の心のなかの優しさと辛さの両方を表すために、左右非対称にし、全体を白と黒で仕上げた。「あなたの涙」をイメージして青色を、「きみの血」をイメージして赤色を筆でとぼした。全体に切り込みを多く入れて、「ほく」の心のポロポロとした感じを表した。



選んだ詩 「帰途」

あなたはこの詩の世界の誰？

「ほく」のなかの「あなた」と「きみ」

工夫とこだわり

左右を対象にしないことで、「あなた」と「きみ」がいっしょにあることを表現した。動きが出るようにした。悲しさを表すためにまつ毛を白くした。涙のような感じ。服にあわせて顔も少し白めにした。



選んだ詩 「未来へ」 丸山薫

あなたはこの詩の世界の誰？

「旅人」

工夫とこだわり

この詩の情景の冷たい印象を表すために青を選び、ひざ丈で羽織れるコートにした。



選んだ詩 「自分の感受性くらい」 茨木のり子

あなたはこの詩の世界の誰？

冷たいコンクリートでできた真四角の部屋にいる「わたし」

工夫とこだわり

静かだけれど力強い服にしたいと思った。前面で自分の腹黒さへの怒り、背中ではさばさに乾いてしまった自分へのさみしさを表した。プレスレットの赤で、力強さと少しの希望を表現した。

選んだ詩 「帰途」

あなたはこの詩の世界の誰？

「ほく」のすぐそばに存在する「言葉」

工夫とこだわり

ことばのもつ強さと弱さ、攻撃性と防御性の二面性を出そうとした。どこか浮世離れしつつも、神々しくならず親近感をもてるようにした。



選んだ詩 「自分の感受性くらい」

あなたはこの詩の世界の誰？

日々の暮らしの何気ない選択の一つひとつに志をもって社会とつながっていきたいと顔をあげている人

工夫とこだわり

1日の終わりに心身を休める寝床のような服にしたいと思った。頭で設計図を描きすぎず、感触を頼りにしながら、切れ込みを入れたり、ふわふわの布を当ててみたり、呼吸できるような穴をつくったりした。よく凝る左肩をあたたためてあげるためにボリュームをアップした。



選んだ詩 「帰途」

あなたはこの詩の世界の誰？

ことばで埋めつくされた世界にいる人

工夫とこだわり

上着はもこもこさせたり金色を入れることでことばの重さを、中の服は青のグラデーションで上から下にかけてだんだん弱く悲しく変化していく「ほく」の心を表した。ことばはわたしたちの感情を可視化したものだから、それを表すために前に目をつけた。

高校生のコメント

発表では、みんなの考えとか思いとか個性とかをたくさん受けとった。それは重労働だったけど、自分の新たな知識にもなった。



ことばからイメージをおこして服にしていくのは難しかった。でも、自分の考えを文字以外で表現するのはおもしろかった。

たくさんの感性にふれることができておもしろかった。



参加したオトナのコメント

高校の国語の先生が何時間もうっとりと詩の解釈をしていたけど、あの時間の8割でこの授業をしてくれたらよかった。



一人ひとりのこれまでの人生の一部が表現されていておもしろかった。



学校のソトでうでだめし

あるテーマについて、ひとりでじっくり考え、みんなで話し合い、ことばやモノ、カラダをつかって作品をつくったり、発表したりする。高校生たちは、その過程で、同じものを見ていても、ほかの人の見方は違ったりすること、自分の感じ方や考え方もひとつではなく、注意深く見ていくと意外と複雑だったり、外からの影響をうけて変わっていったりすることを体感します。

ふだんと違う刺激に揺さぶられる経験をして、ものの見方や感じ方、表現への感度を高める。それが、自分自身も含めた社会の多様さを実感をもって受けとめていくことにつながります。

(担当：室中直美)

詳細はメルマガ「わやわや」でお知らせします。ぜひご登録ください。



このプログラムの写真：mick park

つな
がる

30

kamp

acampanamento

キャンプ

گاٹھ
گھٹ

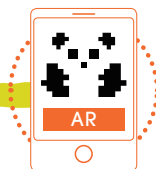
مخیم

کیمپ

нарепы



多言語・多文化交流





ともだちつুক্তた。たくさんゲームやりました。



同世代で初めて自分を認めてくれる人に出会えた、人生で最高な3泊4日だった。

「やってみる」「言ってみる」ことが大切。

普通なんて存在しない。



違っていいんだ!

It was fun being able to express myself without fear of embarrassment or hesitation.

安心できる場所だった!

自分がほかの人と違っていてもいいんだ。

自分が経験してこなかったことをバックグラウンドにもつ子とパフォーマンスをつくることで、自分のアイデアが新しいカタチに生まれかわる。

違うからいいんだ!

違う意見を言っても、誰も否定しない。意見をぶつけあうことができた。

自分と似た境遇にいた人がいて少し安心した。

学校では発信しないのここでは発信したくなった。

自分を隠さなくて、ちゃんと自分を出せた。



たくさんの個性のなかでアイデアがとびかって作品を作っているってすごく楽しい。

私たちが合宿で

気づいたこと!



モノ運びや人形などさまざまな演技の種類があることを初めて知り、組み合わせることとおもしろいステージがつけられると思った。

外国人と日本人の違いは全くない。



見た目じゃない!

演劇が楽しかった!

外国人のような顔でも生まれも育ちも日本だったり、逆に日本人のように見えても外国で育っていたりと、見た目と違う。

演劇に苦手意識しなくても楽しかった。

何語で誰が何を言ってもいい環境だった。

ことばが通じなくても、演劇だと身体で表現するから理解してもらえた。

いろんな言語がある!



言語の壁はあっても、一緒に踊ったり遊んだり話したりすることができる。

日本語だけではなくのがよかった。



これからが わたしたちの物語です



パフォーマンス合宿 2018

パフォー
マンス
合宿

期 間：2019年3月25日(月)～28日(木)

場 所：大学セミナーハウス(東京都八王子市)

参加者：日本に在住し、多様な文化的ルーツやルートをもつ高校生15名、
日本に在住し、多言語・多文化交流に興味をもつ高校生15名



2018年度も演劇的手法を取り入れたワークショップを中心に、さまざまなゲームや身体活動を通じて参加者間の交流を深めていきます。一人ひとりがもっている多様なことばにもっと着目した活動も組み込む予定です。3泊4日の合宿生活を通じて、自分の個性を開放し、仲間のよさを発見することで、自分を表現したり人と関わったりする自信がもてるようになります。(担当：長江春子)

このプログラムの写真：劉成吉

財団の 概要

J
A
P
A
N
F
O
R
U
M

ANNUAL REPORT 1987-1988

事業報告1987-1988





人やモノや情報が国や地域を越えていくグローバル社会。
日本国内でも学校で、地域で、職場で、
多言語・多文化状況が進んでいます。
グローバル化が進展するこれからの時代、
子どもたちの活躍の舞台はますます
世界に広がっていくでしょう。
こんな時代を生きていく子どもたちが
自分たちの未来を切り拓いていくために
必要な力は何でしょうか。
他者と対話する力、共感できる力、
異なることば、異なる文化の人びとと協働し、
新しい何かを創造する力……
私たちはこれらの力を育むための
外国語教育と交流事業を国内外で行っています。

2018年度の事業

体験する

りんごをかじろう
好朋友 日本文化体験の場づくり

探究する

「外国語学習のめやす」活用の促進
社会変化に対応し学びをデザインする教師研修
学校のソトでうでだめし

つながる

SEOULでダンス・ダンス・ダンス
日韓の校長交流
日露の教師・生徒交流
多言語・多文化交流「パフォーマンス合宿」

発見する

日本の情報発信
事業報告『CoReCa』の発行
メールマガジン「わやわや」の配信

わやわや
ご登録はこちらから



メルマガ「わやわや」で研修、
セミナーなどの情報をお知らせ
しています。ぜひご登録く
ださい。

Facebook



Facebook では交流
プログラムなどをリアル
タイムにレポートし
ています。

31年めのスタート

1999年に理事長として新たなスタートを切ったとき、心に強くあったのは「初心に戻る」ことです。外交官として40数年、世界と向き合ってきたのですが、国際交流もかくあるべしと決めつけなくて、まっさらな気持ちで草の根交流に励もうと思ったわけです。そして時代や社会の変化にあわせ、民間だからこそできる国際交流に果敢に取り組んできたと自負しています。

昨年設立30周年を機に、次の10年に向けふたつの新たな事業を始めました。ひとつは多言語・多文化交流プログラムです。さまざまな言語や文化背景をもつ高校生と、多様なことばや文化に興味をもつ高校生計30名が3泊4日の合宿生活を送りながら、ことばだけでなく身体を使った活動を通じて交流を図りました。合宿を終えた参加者のひとは、ことばや文化の違いから偏見をもつことはもったいないと発言しました。まさに偏見をもたないことは国際的であることの土台です。人を嫌うことは相手だけでなく自分の可能性も小さくしてしまいます。偏見は生産的でないのです。その意味で高校生の時期に柔らかな心でさまざまな仲間と交流することは大いに意義のあることだと思います。

そしてもうひとつの事業は高校生が学校とは違う場所で、同世代や大人たちと創作・表現活動に取り組む「学校のソトでうでだめし」です。昨年度は、舞台衣装家を招き、詩で表現される世界で自分が着る服をつくりました。詩を味わい、想像力をふくらませ、白いTシャツ5枚を使って思いおもいの服が仕立てられたのです。学校ではなかなかできない活動を通じて、高校生がもっている力を引き出していきたい。その思いで、いろいろなジャンル、テーマでこの試みを実施してまいります。

これから初心を忘れることなく事業に邁進したいと思います。皆さまのお力添えをよろしくお願い申し上げます。

理事長
わたなべこうじ
渡邊幸治

TJFはお陰さまで昨年、設立30周年を迎え、また新たな一步を踏み出しました。皆さまのお力添えに対しここに改めて御礼を申し上げます。

私は何か新しいことを始めるとき、それがおもしろいと思えるかどうか、ワクワク感があるかどうか基本にあります。もちろんリスクも検証しますが、ときにはリスクがあってもゴーサインを出すこともあります。10年近く前、電子書籍に乗り出したときもそうでした。電子書籍を2万点発行、紙と電子の同時刊行、と大胆な目標にまで踏み込みました。電子書籍の将来がどうなるかは未知数でしたが、海外のルールを押しつけられても困るわけで、日本でのルールをつくるためには、いま始めておかないと大変なことになるという危機感がありました。その後の電子書籍の伸びは周知の通りです。現在3万数千点の電子書籍を出しています。

ある脳科学者からこんな話を聞きました。迷路の出口にチョコレート置いてクローンねずみを順に放すと、どのねずみも最短ルートを見つけるものの、うまくいくまでにかかる回数がねずみによってずいぶん違うそうです。ところがこの正解のルートの通り道を1カ所ふさぐと、前回いちばん回数が多くかかっていたねずみが最初に最短ルートを見つけられたというのです。つまり、たくさん失敗することが次の成功につながったのです。

人も組織も常に変化することで成長します。変わるためには新しいことに取り組むことが大事です。そのとき、失敗を極端に恐れる必要はありません。失敗したとしても、またトライすればいいのです。おもしろいと思っていることであれば再トライすることも苦にならないでしょう。

皆さまに支えられた30年の歩みを礎として、新しいことに挑戦し続けていきたいと思っています。皆さまのますますのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

評議員会長
のまよしのぶ
野間省伸



TJFを支援してくださっている方々

TJFは皆さまからご協力、ご支援をいただき事業を行っています。
2017、2018年度も下記の皆さまに支えていただきながら事業を進めています。
改めましてお礼を申し上げます。

賛助会員

〔法人〕

➤ 2017年度 伊藤忠紙パルプ(株)・王子製紙(株) 鹿島建設(株) 春日製紙工業(株) 共同印刷(株) キングレコード(株) (株)廣済堂 (株) 講談社ビジネスパートナーズ (株) 光文社 (株) 国宝社 (株) 資生堂 (株) 世界思想社教学社 第一紙業(株) (株) 第一通信社 大ニ製紙(株) 大日本印刷(株) (株) 電通 (株) トーハン 図書印刷(株) 凸版印刷(株) 豊国印刷(株) 日興紙業(株) 日本出版販売(株) 日本製紙(株) 日本図書普及(株) (株) フォーネット社 富士ゼロックス東京(株) 二葉製本(株) 北越紀州製紙(株) 丸王製紙(株) 丸住製紙(株) 丸紅紙パルプ販売(株) (株) 三井住友銀行 三井住友信託銀行(株) 三菱製紙販売(株) (株) 三菱東京UFJ銀行 (株) 彌生洋紙店

➤ 2018年度 王子製紙(株) 鹿島建設(株) 春日製紙工業(株) 共同印刷(株) キングレコード(株) (株) 廣済堂 (株) 講談社ビジネスパートナーズ (株) 光文社 (株) 国宝社 (株) 世界思想社教学社 第一紙業(株) (株) 第一通信社 大日本印刷(株) (株) 電通 (株) トーハン 図書印刷(株) 凸版印刷(株) 豊国印刷(株) 日興紙業(株) 日本出版販売(株) 日本製紙(株) 日本図書普及(株) (株) フォーネット社 富士ゼロックス東京(株) 二葉製本(株) 北越紀州製紙(株) 丸王製紙(株) 丸住製紙(株) 丸紅紙パルプ販売(株) (株) 三井住友銀行 三井住友信託銀行(株) 三菱製紙販売(株) (株) 三菱UFJ銀行 (株) 彌生洋紙店

〔個人〕

➤ 2017年度 石井誠 市原徳郎 カイト由利子 高崎孝 高嶋伸和 浜田博信 細谷美代子 松井外恵 柳川敦重 匿名希望1名

➤ 2018年度 石井恵理子 石井誠 市原徳郎 カイト由利子 高崎孝 高嶋伸和 細谷美代子 松井外恵 柳川敦重 匿名希望1名

助成団体

➤ 2017年度 漢語橋基金 (一社) 尚友倶楽部 (公財) 東芝国際交流財団 (公財) 三菱UFJ 国際財団 ルースキー・ミール財団

➤ 2018年度 韓国国際交流財団 (一社) 尚友倶楽部 (公財) 日韓文化交流基金 (公財) 三菱UFJ国際財団

寄付者

➤ 2017年度 (株) 講談社 石垣麗子 石下景教 石塚誠 泉澤麻由子 上野田鶴子 内田憲孝 及川伊佐子 王安 奥村聡 小田桐奈美 上村圭介 (公財) かめのり財団 木戸芳子 久保田達也 祭貴真美子 佐野実 柴田翼 小沢教材研究チーム 高嶋伸和 学校法人拓殖大学 拓殖大学第一高等学校 玉城真幸 照井はるみ 唐涛 西堀勝仁 馮小喆 布浦万代 ボンダレンコ・オクサーナ 松井外恵 松尾雅広 松崎久子 三田嵩文 宮野真弓 三代純平 森本芙佐子 矢渡富貴 匿名希望 14名

➤ 2018年度 (株) 講談社 任喜久子 内田憲孝 岡島正修 上村圭介 岸昌代 顧文君 小沢教材研究チーム 菅陽子 高橋悦子 長春YO 唐涛 内藤堯夫 内藤水音 服部圭子 平井和之 松尾雅広 宮内孝子 森本芙佐子 山川響子 吉田忠正 和栗雅子 匿名希望 4名

組織

評議員

任期：一期4年

評議員会長	野間 省伸 青山 秀彦 足立 直樹 北島 義斉 豊泉 俊郎 長瀬 眞 芳賀 義雄 山根 隆	(株) 講談社代表取締役社長 王子製紙(株) 代表取締役社長 凸版印刷(株) 代表取締役会長 大日本印刷(株) 代表取締役社長 三菱 UFJ 証券ホールディングス(株) 特別顧問 (株) ANA 総合研究所シニアフェロー 日本製紙(株) 代表取締役会長 (株) 講談社顧問
-------	--	---

理事

任期：一期2年

理事長	渡邊 幸治 *	元駐ロシア特命全権大使
常務理事 <small>(常勤)*</small>	内藤 裕之 *	(公財) 国際文化フォーラム常務理事
業務執行理事 <small>(常勤)*</small>	水口 景子	(公財) 国際文化フォーラム事務局長
理事	上野 田鶴子 金丸 徳雄 輿水 優 境 一三 佐藤 郡衛	特定非営利活動法人日本語教育研究所理事 (株) 講談社常務取締役 東京外国語大学名誉教授 慶應義塾大学経済学部教授 明治大学国際日本学部特任教授

* は代表理事

監事

任期：一期2年

清水 至	公認会計士
白石 光行	(株) 講談社常任監査役

顧問

任期：一期2年

大春 敦	日本製紙(株) 執行役員印刷用紙営業本部長
北島 義俊	大日本印刷(株) 代表取締役会長
酒井 和彦	白本出版販売(株) 専務取締役
鈴木 孝夫	慶應義塾大学名誉教授
田仲 幹弘	(株) トーハン取締役副社長
鮑 啓東	人材派遣健康保険組合前理事長
三木 繁光	(株) 三菱 UFJ 銀行名誉顧問
吉田 研作	上智大学教授

(敬称略 五十音順 2018年9月末現在)

事務局

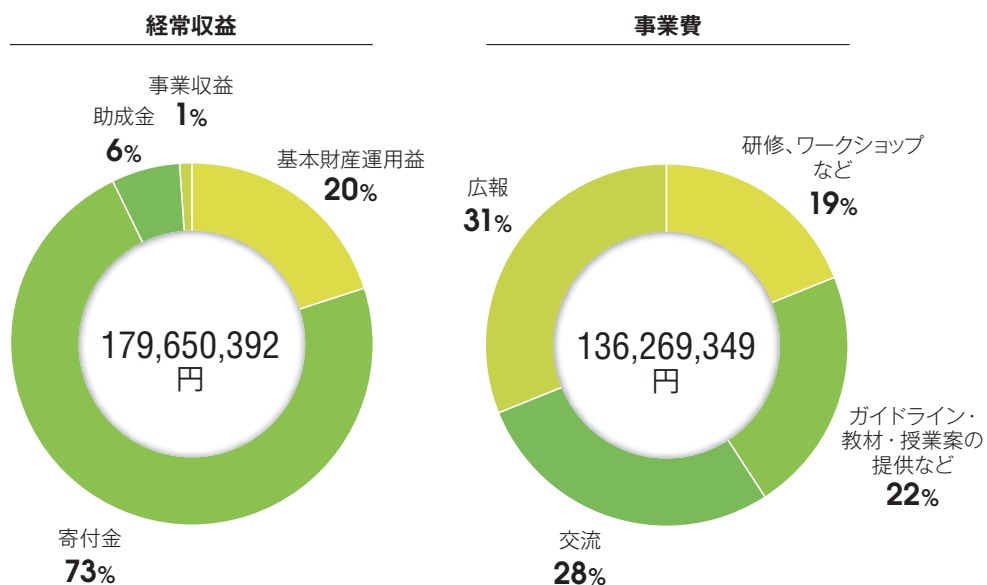
事務局長	水口 景子
事務局次長	藤掛 敏也
主任	千葉 美由紀・長江 春子・室中 直美
職員	柴田 幹子・沈 炫旻・中野 敦 宮川 咲・森 亮介

設立 1987年6月22日
2011年4月1日、公益財団法人に移行

出捐企業 王子製紙株式会社 株式会社講談社 大日本印刷株式会社
凸版印刷株式会社 日本製紙株式会社 株式会社三菱UFJ銀行

基本財産 20億円

財政規模 2017年度の経常収益は約1億7,965万円、事業費は約1億3,627万円でした。
内訳は以下の通りです。



サポートのお願い

さまざまなことばや文化の学び、交流を通じて、子どもたちが21世紀を生きぬく力を育むことがTJFのミッションです。このミッションを達成するために、共感していただける方々に次のようなご支援をお願いしております。

- **寄付** TJFの活動全体に対する寄付、特定の事業を指定する寄付があります。
- **賛助会員** 継続的な支援をしていただける方に賛助会員になっていただいています。
年会費：〔法人会員一口〕50,000円 〔個人会員一口〕10,000円

寄付金につきましては、税制上の優遇措置が適用され、所得税や法人税の控除を受けることができます。さらに、個人寄付者の皆さまには確定申告の際、減税効果の高い「税額控除方式」を選択していただけます。

ご支援くださる方々には、TJFが発行する印刷物を送付するほか、TJFが主催するイベントのご案内を差し上げています。



体験する

好朋友 日本文化
体験の場づくり

モノ ヒト 集う がと



『好朋友』にはさまざまな
日本の文化が登場します。
生徒たちに実物で体験させたい。

先生の思いから

「好朋友 日本文化体験の場づくり」は始まりました。

KEY WORD

『好朋友』とは…

2006年、大連市で第2外国語としての日本語教育が中学校に導入されました。大連教育学院とTJFは、第2外国語教育用教材『好朋友』を共同制作し、07年に第1巻を出版、09年に全5巻が完成しました。その後、他の省でも第2外国語として日本語教育を導入するところが増えていきます。

2016年度に、最初の「好朋友 日本文化体験の場」（以下、体験の場）が遼寧省・大連市第31中学に誕生しました。2017年度は上海市工商外国語学校、広東省・中山市外国語学校、華南師範大学第2付属中学附属南沙小学校、黒龍江省・ハルビン市朝鮮族第1中学にも相次いで誕生し、計5カ所になりました。各校が装飾も含め施設を準備し、TJFが浴衣、カルタ、五月人形、学校の制服、百人一首、絵本、教材などを寄贈しています。体験の場は、学校内にありますが、その学校の生徒だけでなく、近隣の人たちも使うことができます。また学校がある地域に暮らす日本人とのネットワークをつくり、浴衣の着付けに来てもらうなど、さまざまな人たちをつなぐ役割を担っています。

大連

遼寧省大連市
第31中学



ハルビン市

黒龍江省・ハルビン市
朝鮮族第1中学



ハルビン

大連市

上海

上海市
工商外国語学校



自慢の畳

日本風にするためにこだわったのは障子、畳、天井です。特に畳は、上海に工場をもっている日本の畳屋さんを見つけました。
(上海市工商外国語学校 王佳先生)



七夕の願い

中国の七夕は好きな人と結ばれるように、恋人同士が仲よくずっと一緒にいられるように、とお祈りします。日本では恋愛に関係なく、いろいろな願いがかなうように祈ることを生徒に説明して、みんなで短冊に願いことを書いて、体験の場に飾った笹に結びつけました。

(中山市外国語学校 伊藤瞳先生、席芬先生)



広州市

中山市

広東省・中山市
外国語学校

中山



広州

広東省・華南師範大学
第2付属中学
附属南沙小学校



2017年度事業データ

日本語図書・教具等の寄贈

期間：2017年4月～2018年3月、寄贈先：広東省・中山市外国語学校、華南師範大学第2付属中学附属南沙小学校、黒龍江省・ハルビン市朝鮮族第1中学、上海市工商外国語学校、遼寧省・大連市第31中学、助成：(公財)三菱UFJ国際財団

経験交流会

期間：2018/3/23(金)～24(土)、場所：広東省・中山、助成：(公財)三菱UFJ国際財団、会場協力：中山市外国語学校、講師：武田育恵(日本語教育専門家)、実践報告：付瑤(大連市第31中学日本語教師)、参加者：25名

経験交流会

体験の場を活用してもらうために、先生方が実践を共有する機会を設けています。2017年度は5校から10名が中山市外国語学校に集まりました。長年『好朋友』を使って授業をしている南沙小学校の武田育恵先生から、体験の場にある物を教師が見せる



だけでなく、生徒の年齢も考慮して思考力や分析力を育てるような活動にするためのポイントについてレクチャーがありました。その後、グループに分かれ、体験の場にある物を使った授業案づくりに取り組みました。ある班は年中行事をテーマに取り上げ、生徒を12



グループに分け担当月を決めます。各行事に何をやるのか、決まった料理はあるのか、中国と同じ行事があるのか、違うことは何かなどを調べて発表させるものでした。このときに、浴衣やカルタなど体験の場にある物を実際に使います。日本語も適宜使うよう考えられていて、多くの先生から取り入れたいと声が上がりました。

好朋友日本文化 体験の場づくり2018

2018年度は「私の学校の制服をデザインしよう」プロジェクトが進行しています。体験の場がある5校のうち3校と大連市内の中高校で日本語を学ぶ生徒が、学校や地域の特徴を考えて制服をデザインし、日本語でプレゼンテーションするものです。デザインやプレゼンテーションを通して、思考力、想像力、表現力を磨くことが目標です。5月の研修で授業案をつくり、6月から9月にかけて日本語の授業で実施、11月にプレゼンテーションを行うという半年にわたるプロジェクトです。



好朋友web



『好朋友』巻頭に収録している、日本と中国の中学生の友情を描いたストーリー漫画「大連物語」を日中両言語で楽しみながら読むことができます。

『好朋友』第1、2巻を授業で使いたい方は、こちらからお問い合わせください。



好朋友



社会の変化に
あわせる

「グローバル化が進み、変化の予想が難しい時代を生き抜いていく子どもたちに必要な力を育てたい」
よりよい学びを実現するために
日々現場で奮闘する先生方に向けて、
研修を実施しています。

「外国語学習のめやす」ワークショップ

KEY WORD

「外国語学習のめやす」とは…

TJFが2012年に刊行した高校から始める外国語学習の指針。2013年度から2015年度まで毎年20名限定で集中セミナー、実践、報告会からなる研修を一年にわたって実施。この研修修了者が「めやすマスター」となった。



めやす

『外国語学習のめやす』（以下「めやす」）を英韓西中独日仏露8言語で活用する55人の「めやす」マスターが誕生したのは2015年度のことです。

「めやす」マスターはそれぞれ分野で、より広く「めやす」を共有するため、ワークショップ型研修を企画・実施しています。

2017年度は、ソウルと日本をオンライン会議システムZOOMで結び、「めやす」を取り入れた「交流学习」を学び合う教師研修が行われました。このときの参加者同士で10組以上が交流学习の実践を始めています。



東京

ZOOMでつながった 日本会場と韓国会場



ソウル

「めやす」ワークショップは、教える言語の違いを超えて開かれることもひとつの特徴です。2017年度も、スペイン語、ドイツ語、日本語の「めやす」マスターが協力して実施した合宿型の研修には、英語、スペイン語、ドイツ語、日本語、フランス語の先生方が参加しました。海外では、初めて台湾、アルゼンチン、ブラジル、ペルーで日本語の先生方を対象とするワークショップが実施されました。「めやす」マスターの活躍で国や言語を超えて「めやす」が広がっています。

2017年度事業データ

「外国語学習のめやす」合宿～ルーブリックを取り入れたパフォーマンス評価

期間：8/22（火）～8/23（水）、場所：立命館大学、主催：TJF、共催：「めやす」マスター有志、講師：阪上彩子（関西学院大学講師）、田原恵和（立命館大学准教授）、村上陽子（関西学院大学准教授）、参加者：西独日仏語教師、大学院生、計17名

「外国語学習のめやす」ワークショップ～21世紀型スキルをみにつける授業について考えよう

期日：8/30（水）、場所：台湾・淡江大学、主催：淡江大学日本語学科、共催：台湾日本語教育学会、TJF、基調講演：山崎直樹（関西大学教授）、講師：植村麻紀子（神田外国語大学准教授）、阪上彩子、田原恵和、参加者：30名

「外国語学習のめやす」セミナー～日韓合同「交流学习」研修

期日：2018/2/24（土）、場所：〔日本側〕TJF、〔韓国側〕国際交流基金ソウル日本文化センター、主催：TJF、共催：国際交流基金ソウル日本文化センター、「外国語学習のめやす」マスター有志、講師：〔日本側〕澤邊裕子（宮城学院女子大学准教授）、中川正臣（目白大学客員研究員）、〔韓国側〕相澤由佳（聖潔大学助教授）、岩井朝乃（弘益大学助教授）、参加者：〔日本側〕19名、〔韓国側〕13名

「外国語学習のめやす」合宿～「外国語学習のめやす」の目標分解表を作ろう

期間：2018/3/12（月）～13（火）、場所：立命館大学、主催：TJF、共催：「めやす」マスター有志、講師：阪上彩子、田原恵和、村上陽子、参加者：英西独日語教師、大学院生、計16名

「めやす」マスターの南米派遣

①期日：2018/2/23（金）、場所：アルゼンチン・ブエノスアイレス、参加者：25名、②期間：2018/2/26（月）～27（火）、場所：ペルー・リマ、参加者：23名、③期間：2018/3/1（木）～2（金）、場所：ブラジル・ブラジリア、参加者：19名 ①②講師：阪上彩子*、田原恵和、③講師：阪上彩子*

①-③とも主催は現地機関 *渡航費をTJFが負担

社会変化に対応し学びをデザインする教師研修

稲垣忠・東北学院大学教授（教育工学）による、探究学習やプロジェクト学習の学びの質的な側面をどう評価するかをテーマとしたワークショップを行いました。○×での判断や点数化がしづらい思考や論理、表現などを評価するときに役立つのがルーブリックです。稲垣先生は、ルーブリックづくりの作業をすることで、各単元の学習内容や目標を整理して優先順位をつけたり、生徒がどういところでつまずきやすく、どんな手だてが有効なのかを明確にすることもできると言います。

今回は、稲垣先生の提示する3つのルーブリックの作り方のなかから、生徒の作品をもとにする方法に取り組みました。実際の作品から抽出した評価の観点と基準なので、生徒の実態に合うという利点があります。まず、それぞれ



ルーブリックの作り方

- 目標ベース** 単元の到達目標を細分化・具体化しながらつくる
- 作品ベース** 学習者の作品から質的な差異を取り出してつくる
- 即興ベース** 授業のなかで生徒と対話しながらつくる

が持ち寄ったパンフレットや発表動画などを見直して、ざっと4つの段階（レベル）に振り分けます。その後、振り分けの際の理由や視点は何かあったのか考えて書き出します。それを思考と表現の二つの観点に分けて記述し直してルーブリックをつくりました。

また、インターネットを使った同時配信も行い、大阪、鹿児島、神奈川、北海道、フランスなどから参加がありました。

2017年度事業データ

21世紀の北海道の英語教育：マスタープランからレッスンプランへ

期間：8/1（火）～8/3（木）、場所：北海道、講師：當作靖彦（カリフォルニア大学サンディエゴ校教授）、参加者：北海道の公立高校の英語教員10名

プロチーブメントテストの理論と実践：効果的なパフォーマンス評価

期日：9/20（水）、場所：沖縄、講師：當作靖彦、参加者：沖縄県立高校の外国語教員60名、主催：沖縄県教育委員会、共催：TJF

第4回小中高校教育関係者向けCMづくりワークショップ

期日：11/5（日）・11/12（日）、場所：TJF、講師：近藤祐見（（株）電通CMプランナー）、参加者：小中高校の教員ほか6名

Minds-onの学び

期間：2018/2/17（土）～18（日）、場所：北海道、講師：細井洋実（聖心インターナショナルスクール教諭）、参加者：北海道の公立高校の英語教員12名（オンライン参加者を含む）

学びの質にこだわってみよう～ルーブリックで評価を見える化する

期日：2018/3/21（水）、場所：TJF、講師：稲垣忠、参加者：小中高校の教員15名（オンライン参加者含む）

評価規準	S評価	A評価	B評価
思考（アルファベットの字形認識）	間違えやすいものと、間違えにくいもの例をいくつあげ、それらをどう見えたか、具体的な記述が見られる。	アルファベットの字形の違いに気づき、間違えやすいものと、間違えにくいもの例をいくつか記述することができる。	アルファベットの字形の違いに気づき、間違えやすいものと、間違えにくいもの例を1つは記述することができる。
思考（学習ストラテジー）	活動をする際に、どのような工夫を取り組めばよいかの具体的な記述と、実証効果についての記述が見られる。	活動をする際に、どのような工夫を取り組めばよいかの具体的な記述が見られる。	活動を行った際の、難しさや、楽しさに関する主観的な感想程度の記述が見られる。
	全ての学習目標に対して、一つ一つ具体的に学びの振り返りが	全ての学習目標に対して、一つ	いくつかの学習目標に対して、

●このワークショップでつくったものを含め、さまざまなルーブリックが稲垣先生が運営する「ルーブリックバンク」に掲載されています。ウェブ上でルーブリックを作成することもできます。 <https://mm4.cs.tohoku-gakuin.ac.jp>

●表紙のカードは稲垣先生が考案した学習活動カードです。下からダウンロードできます。 <http://ina-lab.net/special/joker/pbl/#i-2>

交流学習への一歩が踏み出しやすくなった気がします。つながりを大切に、アイデアの交換なども続けていけたら嬉しいです。

プロジェクト型の授業を行っていますが、それを成績にどう反映させるかがとても難しい。公平性が見えにくいのではないかと悩み、参加しました。

実施に向けて、環境面での制約はありますが、まずはビデオレターなど可能な範囲で交流ができるよう、工夫してみようと思います。

小学校の英語が教科化され、どう評価していくか。これまで振り返りカードを集めて返すだけでしたが、ルーブリックを使って評価してみたいです。

交流相手の学校を探すのが難しくそうです。相手が見つければ、今日作成した案通りにやってみたいと思います。

児童の成果物から、逆引き発想でルーブリックをつくるという斬新な発想に目からうろこでした。ほかの教科でも活用できる素晴らしい方法だと感じました。

参加者の声

教師向け研修 2018

<p>2018年12月20日</p>  <p>習字先で、自分の太字、そして日本について話そう</p> <p>所属学校 (仮名) 先生</p> <p>研修時間 1時間</p> <p>研修形式 個人研修</p> <p>2018年12月19日に「めやすWeb」が主催した、「めやすWeb自習会」で発表されたもの。参加者から好評で、また講師の指導が受けられた。同じ講師がワークショップをやることにもなるので、さらに実施したいという意向が強いとのこと。2019年3月に刊行。</p> <p>2019年3月10日 15:00~17:00 1時間 日本語版 英語版 研修資料</p>	<p>2018年12月20日</p>  <p>日本人の反応に手紙をかこう</p> <p>所属学校 (仮名) 先生</p> <p>研修時間 1時間</p> <p>研修形式 個人研修</p> <p>2018年12月19日に「めやすWeb」が主催した、「めやすWeb自習会」で発表されたもの。参加者から好評で、また講師の指導が受けられた。「めやすWeb」の「つなぐ」が効果的に活用できると好評。2019年3月に刊行。</p> <p>2019年3月10日 15:00~17:00 1時間 日本語版 英語版 研修資料</p>	<p>2018年12月20日</p>  <p>縁起交換はできる？ 挨拶手紙は？ 一日本と付箋机における異文化行動の異同</p> <p>所属学校 (仮名) 先生</p> <p>研修時間 1時間</p> <p>研修形式 個人研修</p> <p>中国語一歩の生活と日本人生活の経験による「付箋机文化」の発見がある。様々な異文化の背景や文化の違い、また、中国語の文化や生活習慣の紹介も行う。2019年3月に刊行。</p> <p>2019年3月10日 15:00~17:00 1時間 英語版 日本語版 研修資料</p>
---	--	---



「めやすWeb」では、『外国語学習のめやす』を使って、よりよい授業をしたいと願う教師のために、実践例や研修などの情報を随時更新し提供しています。

「めやす」マスター有志による、長年の実践と研究、研修活動に基づく初の研究書『他者とつながる外国語授業をめざして—「外国語学習のめやす」の導入と活用』（仮題）が2019年3月に（株）三修社より出版される予定です。

メルマガ「わやわや」で研修、セミナーなどの情報をお知らせしています。ぜひ登録ください。



5

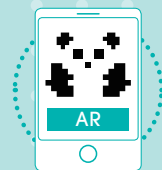
体験する

りんごをかじろう

楽しむ
まじっ
かけを



りんご＝隣語。
隣の人とつながるためのことばです。
文化の違いを楽しんで、
心の距離を飛び越えるためのことばです。
さまざまなりんごにふれてみたら、
きっとどれかをかじってみたくなるはず。



イベント
「りんごをかじろう」

広く一般に向けて実施している「りんごをかじろう」は、スタッフの「面白そう」アンテナにひっかかったテーマを取り上げ開催しています。堅苦しい主催者あいさつも、アンケートで感想を求められることもありません。ただ半日楽しめばいいのです。ここにあるのは、リアルイベントへのこだわりです。半日足を運んでもらって、人と出会い、体感してもらおうからこそ、心に強く残ります。必ず1時間ほど、テーマに関するお茶やお菓子を楽しみな

がら懇親会を行い、参加者同士のつながりをつくることをめざしています。2017年度は、腰巻き布「マロン」を通して、フィリピン南部の文化と社会にふれました。筒状の布が、ショールに、ズボンに、かばんに、赤ちゃんのだっこひもに……と七変化しました。



2017年度事業データ

まあって知ろうーフィリピン南部のマロン文化と社会の魅力
期日：7/22 (土)、場所：TJF、講師：石井正子 (立教大学教授)、協力：長瀬アガリン (カフィン移住者センター)、参加者：16名

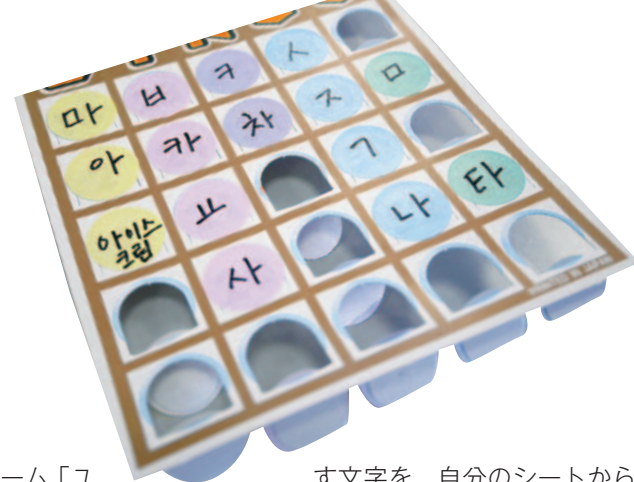


隣語講座

さまざまな外国語を学びたいと思っても、学校に講座がなく、なかなか学ぶ機会がないという中高生を対象に、他の機関と協力して講座を実施しています。TJF主催の講座では「活動型」の学習が中心。静岡県西遠女子学園で行った3日間集中の隣語講座(韓国語)では、韓国映画を見たり、好きなK-POPの魅力についてプレゼンテーションをしたり、韓国

伝統のゲーム「ユンノリ」で遊んでみたり、韓国屋台定番のおやつ「ホットク」をつくって食べてみたりと、実にさまざまな活動に挑戦しました。そして、講座の最後に行ったのが、ハングル文字で行うビンゴゲーム。先生が読み上げる子音や母音を表

す文字を、自分のシートから探します。生徒たちは楽しみながら自然と韓国語にふれるのです。より多くの中高生に学ぶきっかけを提供するために、週末に参加できる単発の講座や、1年を通して学ぶ長期講座なども開催しています。



2017年度事業データ

中高生のための韓国語講座
期間：2017/4/8 (土) ~ 2018/3/3 (土) (全24回)、場所：東京、主催：駐日韓国文化院世宗学堂、共催：駐日韓国大使館韓国文化院、TJF、講師：鄭賢熙 (神奈川立白山高等学校ほか講師)、参加者：28名

高校生のための隣語講座(韓国語)-KPOPろう!
期間：10/14 (土)・10/21 (土)・10/28 (土)・11/4 (土)・11/18 (土)・11/25 (土)・12/2 (土)・12/9 (土)・12/16 (土)、場所：東京、主催：東京韓国教育院、TJF、講師：張河林 (東京大学大学院)、参加者：高校生6名

高校生のためのドイツ語講座ードイツのテーブルゲーム TIPP-KICKしよう!
期間：10/15 (日)・10/22 (日)・11/12 (日)、場所：神奈川、主催：東京ドイツ文化センター、TJF、後援：神奈川県教育委員会、講師：シュテファン・ヘンゼル (東京ドイツ文化センター講師)、参加者：高校生5名、高校教師2名、計7名

静岡県西遠女子学園 隣語講座(韓国語)
期間：12/23 (土) ~ 12/25 (月)、場所：静岡、主催：静岡県西遠女子学園、神奈川韓国総合教育院、TJF、協力：(一社)グローバル人財サポート浜松、講師：朴香妹 (静岡大学ほか講師)、参加者：中学生7名、高校生1名、高校教師2名、計10名





世界の言語と 文化を知らう講座

これから「隣語」を学ぼうとする人の背中をそっと押す。中高生だけでなく、先生方や保護者の方にも、さまざまな言語や文化にふれてもらおうと、この講座が開かれました。

東京都立杉並総合高等学校では、生徒、先生、保護者に集まっていたいただき、落語家の三遊亭楽生師匠による「落語×中国語」をテーマにした講演を開催。「グローバル時代の伝え方」をキーワードに声の出し方や話し方を語っていた



いただきました。

先生、保護者の方にも“学びの先にある景色”を見てもらうことで、生徒たちの可能性がより大きくなるのです。

2017年度事業データ

世界の言語と文化を知らう！（第4回）「落語×中国語＝グローバル時代の人へのもの伝えかた」

期日：11/25（土）、場所：東京、主催：東京都高等学校総合学科教育研究会、TJF、助成：漢語橋基金、協力：東京都立杉並総合高等学校PTA、講師：三遊亭楽生師匠、参加者：高校教師、保護者、中学生、高校生、計32名

もっともっと “りんごをかじろう”

イベント「りんごをかじろう」、 2018年度の第1弾は 「マインドフルネス」体験

11月24日に僧侶の草薙龍瞬さんを講師
に迎え、瞑想で心を整えます！



《過去の「りんごをかじろう」イベント》

- ベトナム語辞典を編む
- 暮らしの中の祈り～タイの民間信仰～
- イラン式7つの極意
- モノ研究の魅力、など

お手伝い
します！

英語以外のことばの魅力を高校生に伝えるために、第二外国語教育を実施している学校でのオリエンテーションに協力しています。



メルマガ「わやわや」で研修、セミナーなどの情報をお知らせしています。ぜひご登録ください。



13

発見する

日本の情報発信



気になる
あの人に
迫ります

今のリアルな日本を伝えるために、
モノやことがらを超えて、
「人」にアプローチ。
留学生も加わり、
さまざまな目で取材した
日本情報を発信しています。

とぎめき取材記

「とぎめき取材記」ウェブサイトでは、留学生を含め、日本語や日本事情を学ぶ学生たちが、興味のあるテーマを選び、そのテーマに関係する人にインタビューして、まとめた記事を掲載しています。テーマ選び、人選、依頼、取材、記事の作成……、すべて学生たちが行います。

2017年度は、日本の大学だけでなく、海外の大学や日本語学校などでもとぎめき取材記プロジェクトがスタートしました。より多くの学生たちの力で、文化はさまざまな容姿を見せます。これに加えて、「外国語学習のめやす」マスターの田中祐輔・東洋大学准教授を講師に迎え、プロ

ジェクトに取り組む先生方を対象にセミナーを実施しました。参加した4名がつくった単元案やルーブリックはめやすWebに掲載しています。さらに、プロジェクトに取り組む先生方の情報交換の場を設け、TJFはインタビューや写真についての講義動画、資料や素材を提供しました。



東京国際大学の学生とマスクの研究者・飯田裕貴子さん(中央)



武蔵野美術大学の学生と『珈琲時間』編集長の高橋敦史さん

「とぎめき取材記」プロジェクトに取り組んだ先生に聞く

お答えします!



プロジェクトの効果

上田安希子・東京国際大学講師(プロジェクト参加時)

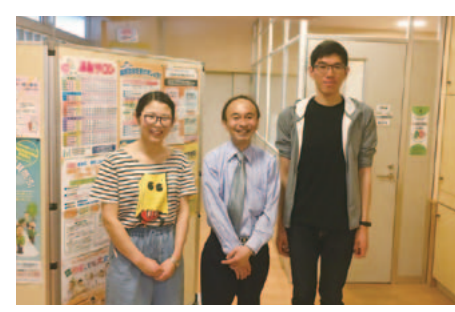
- その1 教室と社会をリンクさせることができる**

TJFのウェブサイトに掲載されることが前提なので、学生たちはリアルな社会を意識してプロジェクトに取り組むことができます。また、テーマに基づき取材先を選定し、インタビューを依頼するというプロセスはキャリア教育にもつながります。
- その2 「ステレオタイプ」に気づく**

テーマに関わる人と会い、話を聞いて記事をまとめる過程で、自分もつ思い込みに気づくこととなります。プロジェクトを通して、学生一人ひとりが、自身のステレオタイプを崩し、日本について、テーマについて、捉え直すことができます。
- その3 留学生と日本人学生の協働が自然と生まれる**

インタビューの内容は日本人でも初めて知る情報であることが多いので、日本人学生のほうが圧倒的に有利という状況にはなりません。むしろ、留学生ならではの視点を交えることで、記事に膨らみもたせられる場合が多く、留学生と日本人学生が対話を活発に行うようになります。
- その4 本当に必要なコミュニケーション力が意識できる**

インタビューの現場では、ふだんの教室活動で求められる正しく丁寧な日本語コミュニケーション力とは異なる力も必要になります。実社会で役立つ「本当に必要なコミュニケーション力とは何か」を意識させることができます。



OLランゲージアカデミーの学生と老人ホーム施設長の金川宗正さん

2017年度事業データ

「とぎめき取材記」プロジェクト
 期間: 2017年4月～2018年3月、参加者: 上田安希子(東京国際大学講師、群馬県立女子大学講師)*、荻野雅由(カンタベリー大学 Lecturer)*、重信三和子(OLランゲージアカデミー講師)*、三代純平(武蔵野美術大学准教授)*、矢部まゆみ(横浜国立大学講師)、義永美央子(大阪大学教授)
 *はセミナー参加者

写真は「とぎめき取材記」ウェブサイトより

2017年度はこの人にインタビューしました



「マスクの秘密」(東京国際大学取材班: 2チーム)

同じチームのトルコの留学生から投げかけられた疑問——なぜ日本ではマスクをしている人が多いのか。確かに日本では日常的にマスクをしている人が多い。でも、日本以外の多くの国ではマスク=病気。マスクのいろいろな使い方やメリットを知るために、マスクの研究者や開発者に話を聞きました。

〔インタビューにこたえてくださった方々〕

〔マスク研究者〕 飯田裕貴子さん
 〔日本バイクリーン株式会社〕 谷津一義さん・向光晴さん



「喫茶店の魅力」(武蔵野美術大学取材班: 3チーム)

日本の喫茶店には独特な雰囲気があります。古くて懐かしい店、暖かい家庭的な店など。なぜそのような店をつくったのか、どんなこだわりをもってこれらの店をつくったのか、そしてオーナーさんはその店とともにどんな人生を歩んできたのか、オーナーさんやカフェに詳しい方にお話を聞きました。

〔インタビューにこたえてくださった方々〕

〔Café Anemone オーナー〕 大野樹音さん・安田久美子さん
 〔名曲喫茶「でんえん」オーナー〕 富美子さん
 〔「珈琲時間」編集長・編集ディレクター〕 高橋敦史さん



「くりっくにっぽん」ウェブサイトの「My Way Your Way」コーナーでは、今、日本で話題になっていることを切り口に、人の考えや生き方に迫っています。2017年度は「妖怪」「アイドル」をテーマにした記事を更新しました。



「ときめき取材記」2018

2018年度も新しい記事が次々掲載されています。

《掲載中のテーマ》

NEW! アートな仕事	老後	スポーツの楽しみ方
人が集う場所	ラーメンの魅力	動物との関わり
留学	自動販売機	カフェの役割
おもてなし	喫茶店の魅力	マスクの秘密

授業に「ときめき取材記」プロジェクトを取り入れたい、という先生は、こちらからお問い合わせください。



ときめき

くりっくにっぽん2018

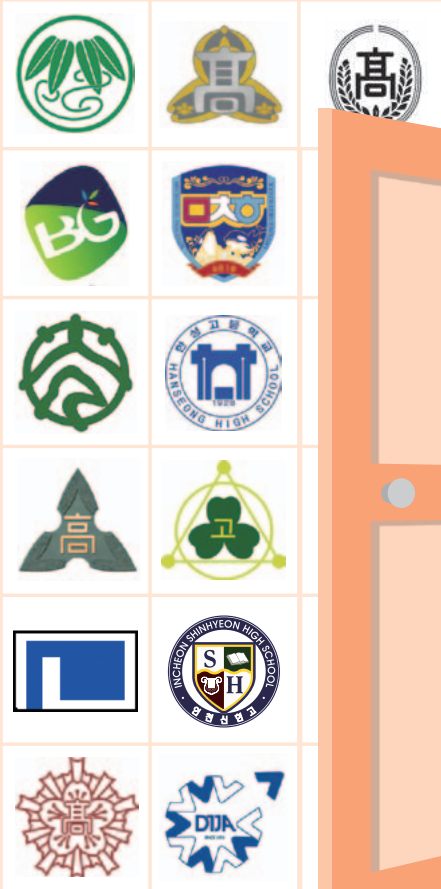
「くりっくにっぽん」「ときめき取材記」のコンテンツを使った学習活動のアイデアを紹介したメルマガ「Click Nippon News」を月1回、日英2言語で配信しています。バックナンバーをご覧になりたい方、配信を希望される方は下からご登録をお願いします。



くりっくにっぽん

つながる

日韓の校長交流



互いのことばの教育や学校間交流を進めるため、カギを握るのは校長先生。この3年間で参加したのは43校。直接見て、感じて、話をして、交流に向けて動き始めました。

会う



日本語を学ぶ 韓国の高校生に

学校を案内してもらいながら、日本語を一生懸命学んでいる様子を知って感動し、自分の学校の生徒と交流させたいと思う気持ちが高まる。

語る



韓国の校長、日本語教師と

教育に対する考え方を伝え合うことで共感が生まれ、交流の第一歩となる。

見る



日韓の中高生の 交流を

「ソウルでダンス・ダンス・ダンス」で互いのことばを使ってコミュニケーションをとっている中高生に自分の生徒の姿を重ねる。

体験
する



韓国の暮らしを

スーパーマーケットで楽しむ。韓国の人たちから勧められたお菓子やラーメンをどっさり買いこんだ。

聞く



韓国の大学に留学中の日本 の大学生に

なぜ留学したのか、卒業したらどうするのか、留学して困っていることはあるのか、などなど質問攻め。

参加校・埼玉県立川越南高等学校、埼玉県立所沢高等学校、千葉県立千葉商業高等学校、千葉県立松戸馬橋高等学校、東京都立杉並総合高等学校、東京都立東久留米総合高等学校、和光学園和光中学・高等学校、神奈川県立座間高等学校、神奈川県立新羽高等学校、広島県立海田高等学校

夏に韓国を訪れて、秋は日本を訪問して、校長先生同士が親交を深める日韓校長交流プログラムは、2017年度も8月と11月にそれぞれが実施されました。

東京、神奈川、埼玉、千葉、広島の10校から、計11名の校長先生と国際交流を担当する先生がソウルを訪問し、韓国の高校の校長

や日本語教師、日本語を学ぶ生徒たちと交流しました。同時期に行われていた日韓の中高生交流「ソウルでダンス・ダンス・ダンス」の見学や、韓国の大学に留学している学生に生活の様子を聞くなど、学校間交流に向けてさまざまな人と出会いました。

11月には（一社）国際フレンド

シップ協会との共催で日本語教育を実施している高校8校8名を招聘し、東京、神奈川の高校で韓国語の授業を見学したり、韓国語教師の全国研修会の参加者と情報交換しました。ソウルで出会った校長先生方が日本で再会し、さらに親密に外国語教育への熱い想いを語り合ったことはいまでもあり

ません。

プログラム開始から3年。日韓参加43校のなかからすでに6組12校で交流が始まっています。生徒が互いに訪問しホームステイをしている学校もあれば、ビデオ電話で交流をしているところもあります。それぞれが自分のペースで始めています。

2017年度事業データ

日韓校長交流プログラム

期間：8/5（土）～8/8（火）、場所：韓国・ソウル、主催：東京韓国教育院、神奈川韓国総合教育院、TJF、輸送協力：ANA、参加者：10校11名
*8/7(月)に日韓校長および教師交流会を国際交流基金ソウル日本文化センターと共催した。

JENESYS2017 韓国の校長と生徒の招聘

期間：11/20（月）～11/28（火）、場所：東京、神奈川、主催：（一社）国際フレンドシップ協会、TJF、実施：（一社）国際フレンドシップ協会、輸送協力：ANA、参加者：8校から管理職8名、高校生11名、引率教師2名

「日韓校長交流プログラム」
に参加した
田中教諭に聞く

イメージが変わった

田中英朗・広島県立海田高等学校教諭

これまで私は国際交流とはあまり縁がなく、今回の交流プログラムに参加するにあたって、韓国の文化や言語に関する予備知識もなく、正直積極的な気持ちで出発したわけではありませんでした。ところが、プログラムを通して多くの気づきを得て、参加できた幸運に感謝しています。

ソウルの街で特に印象深かったのは、地下鉄の優先席が空いていても、若者が決して座らないことです。儒教や兵役経験の影響があるようです。日韓は似たところも多いとはいえ、やはり違う社会であることを感じました。また、「ソウルでダンス・ダンス・ダンス」の現場では、教師の経験則で考え

る何倍もの成長をごく短期間に見せる生徒たちに驚かされました。「好き」と思う気持ちがことばや文化の壁を乗り越えるきっかけになること、体験を共有することが言語を学ぶ動機になることを実感し、交流事業の意義を目の当たりにしました。

これらはすべて、私自身が街の空気を吸い、韓国の先生方や高校生に会ったことでわかったことで

す。私たちは、メディアから受けとったことだけでイメージをつくりがちですが、自分の目で見て検証しようと努力すること、そしてその経験を生徒たちに伝えることが必要だと思いました。

帰国後、本校は桃林高校と交流校協定を結び、今年は学生の短期受け入れも行いました。訪韓時の経験を生かして、交流の下支えをしたいと思います。



韓国の高校生と話をしている田中先生(右)

日韓の校長交流 2018



2018年度も8月に日本から14名が韓国を訪問。11月には韓国から19名がやってきて、再び交流会を実施する予定です。韓国での交流会から日をおかずに、双方でやりとりが始まっていることから、多くの学校間交流が始まるのが期待されます。

【これまでに学校間交流協定を締結した日韓の参加校】

東京都立杉並総合高等学校×美林(ミリム)女子情報科学高等学校、広島県立海田高等学校×桃林(ドリム)高等学校、東京都立東久留米総合高等学校×登村(ドンチョン)高等学校、神奈川県立弥栄高校×東灘中央(ドンタンチュン)高等学校、東京都立日比谷高等学校×彌郷忽(ミチュホル)外国語高等学校、神田女学園中学校高等学校×ソウル女子高等学校

互いのことばを学ぶ日韓の中高生が、
韓国・ソウルで合宿生活を送りながら、
K-POP ダンスをテーマに交流します。
回を経るごとに参加希望者が増え続け、
2017年度は日韓ともに募集人数の
10倍を超える応募がありました。

ダンスで 気持ちが ひとつになる



2012



ダンス・ダンス・ダンス
ダンス・ダンス・ダンス
ダンス・ダンス・ダンス



2017



2013



2014



2015



2016



6回目を迎えた「SEOULでダンス・ダンス・ダンス」。韓国語を学ぶ日本の中高生20名と日本語を学ぶ韓国の中高生19名が、韓国・ソウルで5日間一緒に生活しながら、日韓混成6チームに分かれて、コピーダンスの練習に励みます。

各チーム、自分たちで踊る曲を決め、発表会に向けて練習をしますが、チームにはダンスが得意な子もいれば、苦手な子もいたり、日本語・韓国語で思っていることを伝えられなかったり……。時には意見が衝突し、険悪ムードになることも。そんななかで参加者たちは、互いの個性の違い、コミュニケーションをとることの難しさに気づきますが、なんとかしようとして工夫します。

振り返りシートを見ると、参加者が自分で立てた目標の達成率は平均80パーセント。自分たちのもてる力を総動員してコミュニケーションを図る姿が浮かび上がってきました。



2017年度事業データ

SEOULでダンス・ダンス・ダンス2017

期間：8/6（日）～8/11（金）、場所：東京（事前研修）、韓国・ソウル、主催：秀林文化財団、TJF、実施：秀林外語専門学校、韓国日本語教育研究会、TJF、協力：高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク、輸送協力：ANA、後援：国際交流基金ソウル日本文化センター、引率教師：6名（看護師含む）、参加者：韓国語を学ぶ日本の中高生20名、日本語を学ぶ韓国の中高生19名



まお 真陽 (高2)

目標達成度

80%

「変わった」「成長した」と思うこと

視野が広がった。同じ中高生でも、こんなに自分と違うんだ、と気づいて、もっとたくさんのことを知りたいと思った。

これからの

自分のための3箇条

- ① 笑顔を大切に
- ② 今見えているものがすべてじゃない
- ③ もっとたくさんの世界を見ていく



ん? と思ったこと

韓国人の子が振りつけができないとすぐにあきらめた。



「日本人はあきらめなくてすごいね」と言われ、文化の違いだと気づいた。



ミンソ (高3)

目標達成度

80%

「変わった」「成長した」と思うこと

日本のメンバーからの意見で、自分のことを客観的に見ることができるようになり、成長のきっかけになった。

これからの

自分のための3箇条

- ① 積極的になる
- ② 感情表現を豊かにする
- ③ 正直になる



表情が悪いと、みんなが気にしてくれていることがわかり、明るく積極的な姿を見せようと努力した。



みゆき 未幸喜 (中3)

目標達成度

60%

「変わった」「成長した」と思うこと

最初は自分の意見は言えなかったが、ダンスの練習を通して、自分は何をしたいか、はっきりと伝えられるようになった。

これからの

自分のための3箇条

- ① 自分の考えをちゃんと伝えること
- ② 自信をもつこと
- ③ わかったフリをしないこと!



わからなかったこと

韓国語で伝えようとしたけど、韓国語がわからなかった。



韓国の子で、日本語がよくわかる子に聞いた。



ゆうが 優雅 (高2)

目標達成度

70%

「変わった」「成長した」と思うこと

ダンスに対する意識が変わり、成長できた。周りとの協力の仕方やダンスが苦手な子への教え方が変わった。

これからの

自分のための3箇条

- ① 自分から行動する
- ② 明るく笑顔で接する
- ③ 相手の気持ちになって考える



わからなかったこと

韓国語がわからない……



日本語を簡単にして話してみたり、英語やジェスチャー、翻訳機を使って会話したりした。



ヨンス (高3)

目標達成度

80%

「変わった」「成長した」と思うこと

ダンスでチームの足を引っ張り落ち込んだけど、仲間の頑張る姿を見て、力をあわせることの大切さを学んだ。

これからの

自分のための3箇条

- ① 日本語レベルを上げる
- ② 相手のことを配慮し、相手をほめる
- ③ 任されたことは最善を尽くしてやりきる



もやもやしたこと

日本のみんなは、「大丈夫」と言いながら、本当の気持ちを隠している気がした。



表情をよく見て、みんなの顔色が晴れるまでいるんな意見を出した。



今、何してる!?

— プログラム参加者のその後



齋藤宣世さん

▶ 第2回に参加

昨年、大学を中退して韓国に渡り、K-POPグループのバックダンサーをやっています。5年前高校1年生のときに参加したDDDが大きなステップになりました。チームでダンス経験者はほとと韓国のもう1人だけ。2人でいろいろな曲のダンスを見ては、みんなが踊れる曲を考えたり、振りつけを変えたり……。お互いにことばがわからず、身ぶり手ぶりで必死でコミュニケーションしました。もっと話がしたくてその後韓国語を勉強するようになりました。何よりも友だちができたことで、韓国に何回も行っ一緒に遊びました。そうするうちに、韓国だけでなく、ダンサーになる夢もどんどん近づいてきました。夢は、なりたいて周りに言い続けることでかなうのです。



ソユンジュさん

▶ 第5回に参加

今、明治大学の国際日本学科で勉強しています。もともと、日本観光プランナーになりたいと思っていたのですが、高校2年生でDDDに参加したときに、ルームメイトと進路や大学の話になり、日本の大学で学ぶことに興味をもちました。日本語の勉強は大変でしたが、DDDの仲間に志望校が同じ日本の子がいたので、一緒に学ぶ日を夢見て頑張りました。東京での新生活、自分の日本像や日本人像と違う、新たな発見の数々が楽しい毎日です。また、これまで私は日韓関係にだけ関心をもっていました、大学で各国からの留学生と出会い、広く学ぶようになったことで、世界各国と日本の関係に興味の範囲が広がりました。国際的な視野で日本を捉え直していこうと思います。

SEOULで ダンス・ダンス・ダンス2018

2018年度も8月7日から12日まで、日本20名、韓国20名、計40名が6チームに分かれてダンスを通じて交流しました。

2018年 参加者のつぶやき

私たちの部屋だけで通じることばができた。6人で日本語と韓国語を交えながら話していたとき、ヨヌちゃんが「カムチャギヤって日本語では何て言うの?」と聞いてきた。

「びっくりした、だよ」と答えたら、「みっくらじ?」と聞き間違った。みっくらじは「どじょう」のこと。でも、それ以来、びっくりしたときには、みんなで「みっくらじ〜」。

2018年 担当者のつぶやき

今年のDDDは、金熙秀(キムヒス)記念秀林アートセンターのホールを会場に。「えっ、ここでやるの!?!」と真剣にならざるをえないステージを用意しました。会場に足を運んでくれたプログラムOG・OBから「うあっ、すごい……」「えっ、ずるいー!」。この声が聞こえてきたとき、ひとりステージの隅でほくそ笑んでいたのが私です。

次回は2019年春 募集開始!!

自分だけで(学校を通さず)応募OK!
韓国語をしゃべれなくたってOK!
ダンスは練習すればいい!!

募集情報は下のウェブページでお知らせしています。



ソウルで
ダンス
ダンス
ダンス



1

つながる

×
日露の
教師・生徒交流

結びつく一人ひとりが

互いのことばを教える教師・
学ぶ生徒をつなぐために、
2015年度から始まった
日露交流プログラムは、
ロシアの教師の日本招聘、
日本の教師・生徒のロシア派遣と
一年ごとに行き来をしながら
対象地域や参加人数を増やしてきました。

サンクトペテルブルク

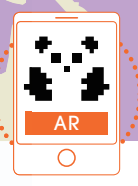
モスクワ

ペルミ

ノボシビルスク

青森

東京



2017年度は、モスクワ、サンクトペテルブルク、ノボシビルスク、ペルミの中高校で日本語を教える教師と、その生徒たちを日本に招聘しました。まずロシア語教育を実施している青森県立青森南高等学校を訪ね、全校挙げての歓迎会、書道や茶道、ロシア語を学ぶ生徒の家でホームステイを体験しました。東京に戻ってからは、日本の高校でロシア語を教える先生とその生徒たちも加わり、先生と生徒に分かれて2泊3日の合宿生活を送りました。

演劇的手法を取り入れた生徒の交流では、じゃんけんや押し相撲

など軽い動きから始め、徐々に身体を動かしていくことで、少しずつ打ち解けていきました。日本語やロシア語、英語、ジェスチャーも交えてコミュニケーションをとりながら、『にじいろのさかな』（マークス・フィスター作）のストーリーから連想して寸劇をつくりました。

後日、参加者のひとりがロシア・ノボシビルスクで開催された日本語弁論大会で、今回の日本訪問についてスピーチして1位になりました。今回の訪日がきっかけとなり、日本に留学することが将来の目標になったと語りました。



青森南高校での歓迎会



◎TJF (2点とも)

書道の体験授業を受ける

2017年度事業データ

ロシアの中高校日本語教師・生徒の日本招聘

期間：9/11(月)～9/19(火)、場所：青森・東京、助成：(一社)尚友倶楽部、(公財)東芝国際交流財団、協力：青森県立青森南高等学校、輸送協力：JAPAN AIRLINES、参加者：教師9名、中学生16名

日露教師・生徒合同合宿

期間：9/16(土)～9/18(月)、場所：大学セミナーハウス(東京都八王子市)、助成：ルースキー・ミール財団

●中高校生交流

協力：創価大学、同ロシアセンター、コーディネーター：田室寿見子(演劇ユニットSin Titulo代表)、ファシリテーター：柏木陽(演劇百貨店店長)、青山公美嘉(演劇百貨店メンバー)、とみやまあゆみ(演劇百貨店メンバー)、参加者：日本語を学ぶロシアの中高校生16名、ロシア語を学ぶ日本の高校生30名

●ロシアの日本語教師研修

講師：金孝卿(大阪大学准教授)*、ボンダレンコ・オクサーナ(富山県立伏木高等学校ほか講師)、参加者：9名 *主任講師

●日本のロシア語教師研修

協力：日本ロシア語教育研究会、講師：林田理恵(大阪大学教授)*、小田桐奈美(関西大学助教)、カザケウィッチ・マルガリータ(富山大学教授)、北岡千夏(関西大学ほか講師)、東シャトヒナ・ガンナ(外務省研修所講師)、参加者：15名 *主任講師

ロシアへの日本語図書・教材寄贈

期間：2017/10月～12月、寄贈先：ノボシビルスク、ペルミ、モスクワ、サンクトペテルブルク市の中高校計8校、助成：(一社)尚友倶楽部

生徒の合同合宿



絵を見て話し合い、物語をつくる



ロシアの中高生のほうが積極的だろうと思っていたが、人それぞれ。先入観で決めつけるのはよくないと気づいた。

各グループ、つくった寸劇を演じる



私たちが男女でハグしたり仲良く話をするに日本の高校生は驚いていた。逆に、私たちは日本の高校生は男女が話さないことが不思議だった。

振り返る



学んだ表現がとっさに出てこない悔しさはあったけど、なんとしても伝えようとする姿勢があればなんとかなることに気づいた。



生徒が交流プログラムに参加している間、先生方は教授法に関する研修です。

日本でロシア語を教える先生方は、教育目標、内容、教材の扱い方から発音の指導法までさまざまな講義を受けました。それぞれが持ち寄った教科書の特徴や使い方について一人ひとり紹介し、活発に意見交換をしました。教科書の単元を追うことに終始していたが、教科書を教えるのではなく教科書で教えることに気づかされた、使っている教科書をすべてなぞらなくていいと聞いて目からうろこだった、といった声が上がりました。

ロシアで日本語を教えている先生方の研修では、来日してから集めた資料を活用して授業案をつくります。小学生向けのドリルや観光パンフレット、青森や東京で集めた木の葉も教材になります。早速授業に生かしたいと多くの先生が感想を述べました。

夜は日露の先生がひとつの部屋に集まり、ふだん抱える悩みや課題を語り合っただけで交流を深めました。



日露の 教師・生徒交流 2018



11月に開かれる報告会の会場、
ロシアキリスト教人文アカデミー

©TJF

2018年度は、日露それぞれ9名の先生がペアを組んで、授業に交流を組み込んだ交流学习プロジェクトを行っています。年間を通した授業プランをペアで作成し実践します。11月2日にサンクトペテルブルク市で市内の小中高大の日本語の先生方に向けて、プロジェクトの中間報告会を実施します。プロジェクトメンバーを日本から7名、ノボシビルスク、モスクワから5名を派遣します。メンバーや報告会参加者からのフィードバックを受け、交流学习をより充実させ、2019年3月にはオンラインで最終報告を行う予定です。

このプログラムの写真：劉成吉 (©TJF以外)

目次

- 1

つながる × 日露の教師・生徒交流 (写真: 劉成吉)
一人ひとりが結びつく
- 5

体験する × りんごをかじろう
きっかけを楽しむ
- 9
つながる × 日韓の校長交流
交流の扉を開く
- 13
発見する × 日本の情報発信
気になるあの人に迫ります
- 17

つながる × SEOULでダンス・ダンス・ダンス
ダンスで気持ちがひとつになる
- 21
探究する × 教師向け研修
社会の変化にあわせる
- 25
体験する × 好朋友 日本文化体験の場づくり
モノとヒトが集う
- 29
財団の概要
TJFを支援してくださっている方々
理事長あいさつ
評議員会長あいさつ
組織



このマークのあるページでは動画がご覧いただけます。動画をご覧いただくには、下の手順にそってお願いします。

1. お手持ちのスマホ/タブレットで下のQRコードを読み込み、COCOAR2アプリをインストールしてください。
2. COCOAR2アプリを立ち上げ、このマークのあるページ全体がスマホ/タブレット画面に入るようにしてください。
3. ダウンロードが終了すると同時に動画が始まります。
4. 全画面で見やすくするためには、スマホ/タブレットをこのマークがっているページからずらしてください。
5. 動画は繰り返し再生されます。
6. 再びご覧になるときは、2~4の手順を繰り返してください。



【 iPhone / iPad用 】



【 Android用 】

2018年11月発行

(公財) 国際文化フォーラム

〒112-0013

東京都文京区音羽1-17-14

音羽YKビル3F

Tel 03-5981-5226

Fax 03-5981-5227

Email forum@tjf.or.jp

URL www.tjf.or.jp

Facebook

www.facebook.com/TheJapanForum

発行人 内藤裕之

デザイン 山本義明 (goldfish design)

表紙ロゴ 土屋勇太

編集担当 千葉美由紀 (TJF)

編集協力 古賀亜未子 (エスクリプト)

印刷・製本 凸版印刷株式会社

ISSN 2189-6208

©2018 by the Japan Forum, Printed in Japan